

「社会福祉連携推進法人」

スイッチON!! なんだか久々にテレビでも桜が見れたと思いきや、あっというまに夏日ですね。日陰に入ると涼しいのに、日向になると痛いくらい暑い。。。GWが終われば梅雨。。。花粉が終われば次はジメジメ。

さ~! 『外は雨でも私の心はいつも晴れ!』と、天気や外部に左右されないセルフコントロールでご機嫌様でいきましょう!

さて、4月の期の始まりというスタートで、ギリギリまで方向性を模索してました。

これから残り続けるために、顧客の支持率、社員の支持率がなければ会社は存続しません。

そのうえで、我々は制度改定等の柔軟な変化が求められます。

制度改定のたびに、厚生労働省の方針をもとに、これからの社会福祉法人の考えやサービスのあり方が方向付けられます。

そうなれば制度で成り立っている事業ではありますので、自分たちの考えを固執しても、それが大きな川の流れに沿っていなければ、ただの自己満足になってしまいます。

いままで単体で動いていた事業が、グループという考え方で変化した去年でした。

千歳会だけでなく、医療法人や株式会社等のグループが地域の面を支えております。

これからの継続的な事業運営で必要なのは、生産性向上であると言う事はわかっております。

そうすると大手や店舗展開している企業には、生産性や効率化を考えると我々は競争できません。

中小企業である我々がどう事業を継続していくのかを考えると、共同購買であったり、中間管理部門の本部機能を一段上げる必要があります。

そこで2020年に新しい考え方が生まれました。

「社会福祉連携推進法人」という制度が社会福祉法人には、選択肢として与えられました。

これは株式会社と同じような領域でサービスを提供していけば、今後の社会福祉と言う観点では立ち遅れる可能性がある。企業競争に巻き込まれれば出発点の違う社会福祉法人は勝ち目がありません。

そうならないためにも、今回の社会福祉連携推進法人という制度が必要になってきたと私は考えております。

千歳会単体ではなく、今後グループ全体でこの社会福祉地域連携推進法人という考え方をもち、

継続的な社会福祉サービスを提供できるよう、今年の1年私の中で勉強も含め考えていこうと思っております。

裏面に詳しく載せますね。

社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

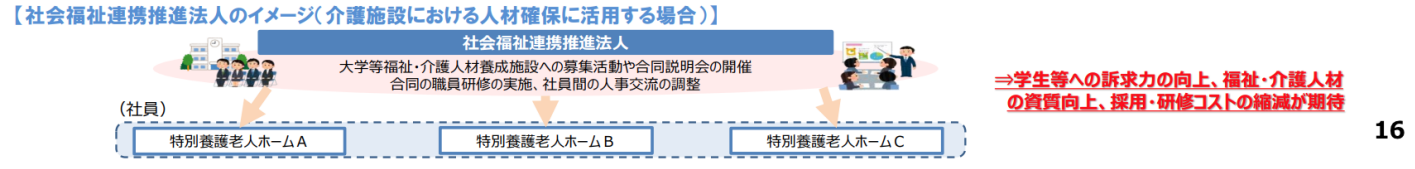


社会福祉連携推進法人について

- 社会福祉連携推進法人は、①社員の社会福祉に係る業務の連携を推進し、②地域における良質かつ適切な福祉サービスを提供するとともに、③社会福祉法人の経営基盤の強化に資することを目的として、福祉サービス事業者間の連携方策の新たな選択肢として創設。
 - 2以上の社会福祉法人等の法人が社員として参画し、その創意工夫による多様な取組を通じて、地域福祉の充実、災害対応力の強化、福祉サービス事業に係る経営の効率化、人材の確保・育成等を推進。
- ⇒ 社会福祉連携推進法人の設立により、**同じ目的意識を持つ法人が個々の自主性を保ちながら連携し、規模の大きさを活かした法人運営が可能**となる。



所轄庁(都道府県知事、市長(区長)、指定都市の長、厚生労働大臣のいすれか)
 認定・指導監督



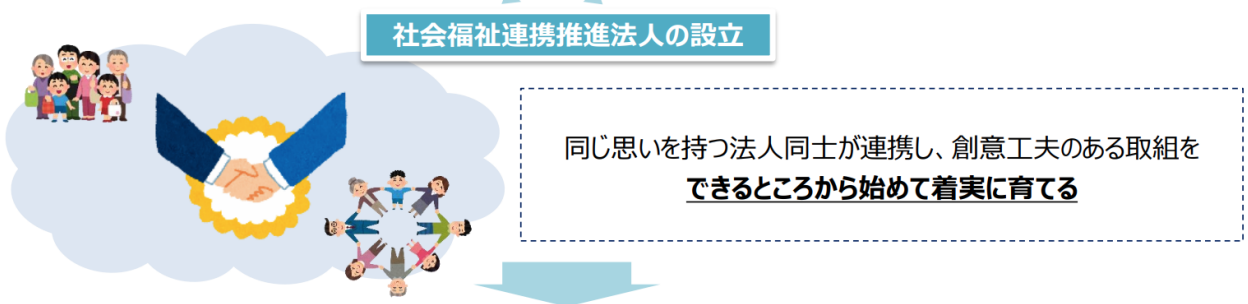
地域共生社会への視点

● 地域共生社会の実現に向け、法人の施設種別を超えた取組を構想

経営基盤強化の必要性

● 人口減少、共同体機能の脆弱化といった地域ニーズの変化に対応し、安定的にサービスを提供するため、法人の持続可能な経営基盤の確保の方策を検討

選択肢のひとつとして



人口減少等の局面にあっても、未来へと繋がっていく地域づくりのプラットフォームへ